

守谷市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

守谷市の水田農業は、米を中心とした農業経営が主であり、担い手への農地集積が進んでいる。

しかしながら、従来の農村地域から首都圏近郊都市へと発展していく中で農家戸数は減少し、不作付地の拡大も進んでいる。

また、農業者の高齢化に伴い、後継者不足が大きな課題となっている。

2 作物ごとの取組方針

市内の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

生産される米のほとんどが、農業協同組合などの集荷業者を通じて販売され、主食用米として扱われている。特に、特別栽培米は産地指定米として販売先が確定していることから、引き続き作付面積、栽培農家の増加を目指す。

また、県の「いばらき高品質米生産運動」に準じて、適期田植など基本5技術の励行による高品質米生産運動や熟期の異なる品種の導入による作期分散、適切な施肥の徹底、大規模経営による低コスト・省力栽培の導入を図り、付加価値の高い、買ってもらえる米づくりを推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米からの転換田、調整水田等における食料自給率・自給力向上戦略作物の需要に応じた生産拡大を図る。また、飼料用米の生産拡大に当たっては、国からの産地交付金を活用した、多収品種の導入、団地化及び低コスト化の取り組みを推進しながら、作付拡大を図る。

イ 加工用米

需要に応じた作付の取り組みを図る。

ウ 備蓄米

需要に応じた作付の取り組みを図る。

エ WCS用稲

耕畜連携助成を活用し、需要に応じた栽培の取り組みを図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、認定農業者、生産集団を中心に取り組みが続いているが、所得向上を目指し品質向上が望まれる。

飼料作物の多くは、市内の酪農家が青刈りとうもろこし、イタリアンライグラスなどを自ら生産し自家利用しているため、需要に応じた作付と品質向上を図る。

(4) そば

需要に応じた作付を行うとともに、農地の土壌改良や排水対策等を推進し生産性の向上を図る。

(5) 野菜

インショップや農産物直売所での産直野菜の販売が好調なことから、地域振興作物として作付を拡大する。

(6) 地力増進作物

連作障害や地力の低下している圃場への緑肥をすき込むことで、土壌改良や連作障害回避が期待されることから、引き続きソルガムを中心に地域振興作物として取り組む。

(7) 景観形成作物

コスモス、菜の花などを地域振興作物として作付し、耕地の有効利用を図る。

(8) 不作付地の解消

現行の不作付地について、現状5.7haから5年後に5.1haへ、飼料用米等の作付により解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度作付 面積 (ha)	平成 29 年度の作付 予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標 作付面積 (ha)
主食用米	213.5	205.8	200.0
飼料用米	42.4	53.0	54.0
米粉用米	0	0	0
WCS用稲	4.1	4.1	4.1
加工用米	10.8	0.8	0.8
備蓄米	0	0	0
麦	12.7	12.7	12.7
大豆	5.0	3.7	3.7
飼料作物	28.4	25.7	25.7
そば	2.1	2.1	2.1
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	1.8	2.2	2.2
野菜	1.2	1.3	1.3
地力増進作物	0.3	0.6	0.6
景観形成作物	0	0	0
その他	0.3	0.3	0.3